

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F123310106577	設置等組織名	情報社会学部情報デザイン学科
大学名	福山女子大学	設置区分	私立	事業計画名	情報社会学部情報デザイン学科の新設
学校種	大学	都道府県	愛知県		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	該当なし			R5年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前倒し	該当なし			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出		令和5年3月認可申請			
フェーズ1 後倒し	該当なし			○年度自己評価	リストから選択してください。
	該当なし			○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増		令和6年4月開設			
フェーズ2 後倒し	①令和7年4月から令和9年3月まで情報社会学部棟建設（5,115,000千円） 及び設備整備（410,000千円） ※助成事業予定額は、工学に係る学科のみを面積按分し、情報社会学部棟建設費3,081,209千円及び設備整備費246,978千円とする。			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	①R6年度学部事務室人件費19,800千円（専任事務職員1名9,000千円派遣職員3,600千円×3名） ②R7年度学部事務室人件費19,800千円（専任事務職員1名9,000千円派遣職員3,600千円×3名） ③R8年度学部事務室人件費19,800千円（専任事務職員1名9,000千円派遣職員3,600千円×3名） ④R8年度外部評価 謝金180千円(60千円×3名) ⑤R9年度学部事務室人件費19,800千円（専任事務職員1名9,000千円派遣職員3,600千円×3名） ⑥R9年度福山未来会議(仮)400千円(謝金40千円,印刷製本350千円,消耗品費10千円)			○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福山女子国大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☒ チェック

確認の対象に該当しない

☐ チェック
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り込む計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った

☒ チェック
- ⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑪

フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福山女学園大学
-------------	-------	-----	---------

⑬

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック

⑭

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■ チェック

⑮

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■ チェック

4. 調査事項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業と連携した科目として、㈱デンソー等の企業と連携し1年次では「基礎演習」、3年次では「プロジェクト演習A,B」、4年次では「卒業研究A,B」において、自治体との連携として日進市や愛知県児童総合センター等と連携した2年次の「道（な）学（び）のデザイン」にて、ものづくりを通じたPBL、名古屋市瑞穂区や高浜市と連携した「地域の課題と情報技術」にて、子育て支援の情報発信を通じたPBL等を計画している。その他スターキャット・ケールネットワーク㈱では「行政と情報」、㈱エイチームエンターテインメントでは「ゲームプログラミング」など非常勤講師を派遣する企業と連携しPBLを行う。さらに、これまでのインターンシップ（教養教育科目「キャリア形成実習Ⅰ・Ⅱ」）に加え、TRUNK㈱と連携し同社が運営する「Workschool」でビジネスに必要なITスキルを学び、長期インターンシップへの挑戦を促している。また、他大学と連携した科目として名古屋大学や中央大学と「プロジェクト演習A,B」「卒業研究A,B」にてPBLを行う計画である。	企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施 1年次の「基礎演習」については、計画通り（株）デンソーとの連携を想定し計画を進めており、具体的には、シラバス内容とアクティビティ内容、及び時期について、企業と調整を開始した。 その他、ものづくりを通じたPBLについては、企業と連携した科目として、3年次では「プロジェクト演習A,B」、4年次では「卒業研究A,B」を、自治体との連携として日進市や愛知県児童総合センター等と連携した2年次の「道（な）学（び）のデザイン」を計画している。 子育て支援の情報発信を通じたPBL等については、名古屋市瑞穂区や高浜市と連携した「地域の課題と情報技術」を計画している。その他、スターキャット・ケールネットワーク㈱と連携した「行政と情報」、㈱エイチームエンターテインメントと連携した「ゲームプログラミング」など、非常勤講師を派遣する企業と連携しPBLを行う。 さらに、これまでのインターンシップ（教養教育科目「キャリア形成実習Ⅰ・Ⅱ」）に加え、TRUNK㈱と連携し同社が運営する「Workschool」でビジネスに必要なITスキルを学び、長期インターンシップへの挑戦を促している。 ・関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施 他大学と連携した科目として名古屋大学や中央大学と「プロジェクト演習A,B」「卒業研究A,B」にてPBLを行う計画である。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a. 入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック
- d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐ チェック
- e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜における科目の見直しとして、本学では2024年度入試から一般入試Aにおいて3教科型の入試を新たに全学部・全学科において採用する。また、公募制推薦入試においても新たに教科型を採用し、より幅広い受験生の獲得に乗り出す。女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組としては、本学は女子大であることから、その取組すべてが該当することとなる。地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）については、併設校の福山女学園高校に対しては、2年生の年度初めに全生徒に対して大学説明会を開催し、年度末にも全生徒に対して模擬授業を行っている。保護者に対しては、各年度において保護者に対して大学の説明会を実施している。また、本学では高大連携協定校が9校あるが、当該高校を対象とし、祝日の授業日を利用した学部の正規の授業への参加を行っている。	・入学者選抜における科目の見直し 2024年度入試から、一般入試Aにおいて3教科型の入試を新たに全学部・全学科において採用した。また、公募制推薦入試においても新たに教科型を採用し、より幅広い受験生の獲得に乗り出した。 ・女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組み 本学は女子大であることから、入試広報に関する取り組みすべてが該当する。 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等） 併設校の福山女学園高校に対しては、2年生の年度初めに全生徒に対して大学説明会を開催し、年度末にも全生徒に対して模擬授業を行っている。また保護者に対しても、大学の説明会を実施している。さらに、本学の高大連携協定校9校の生徒が、祝日授業日の学部正規授業へ参加している。	

[illegible]

大学名	椋山女学園大学
-----	---------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1347	1347																	
		入学者数	人	1276	1132																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,347	1,347																	
		入学者数(B)	人	1,276	1,132																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.95	0.84																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	5474	5474																	
		編入学定員	人	40	40																	
		在籍者数(D)	人	5363	5055																	
		編入学者数	人	46	32																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.98	0.92																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		83,202	89,269	91,074	93,862	101,869	82,282													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	91,402
本事業による助成金の額(F)	千円	1,570,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	130,652

特記事項